



7月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2024年発行

No.475

J
M
I
T
U

2025年運動方針 秋闘・年末一時金準備

24春闘は、日本が30年もの間、賃金が下がり続けてきた結果、経済・社会のひずみと行き詰まりを招いている

ら、DX（デジタル技術）など高成長産業への「労働移動」は「中小企業切り捨て」政策そのものです。

背景には「新時代の日本の経営」に基づく、財界・大企業による利益本位の労働者使い捨ての政策があります。

いま、自民党政治が末期状
らたな労働政策を阻止するこ
とは2025年の最重要課題
です。

ヨブ型賃金（成果主義）」の導入をすすめ、労働者間に格差と分断を広げようとしています。また、労働時間などの最低規制を形骸化させる労働基準法の第改悪を準備しています。

いま、自民党政治が末期状況に陥っています。「裏金づくり」事件が発覚し、インボイス、社会保障や教育費の負担増など、自民党政治の長年の失敗による暮らしの困難と一体となつた国民の怒りが一気に噴き出しています。平和もめぐつても、自衛隊と米軍の一本化など「戦争をする国」

大企業での大幅賃上げ

大企業での大幅賃上げ

秋闌·年末一時金準備

秋闘・年末一時金準備
どの企業も労働者の獲得と定着が重大な経営課題となっています。多くの企業では労働者の採用もままならず離職も止まりません。

若者が安心して働き続けられる賃金・労働条件と職場環境、若者にとって魅力があり成長できる職場を作ることを秋闇の最重要課題に位置付けたいです。

づくりをいつそうすすめていたり、憲法と平和の危機が深まっています。

今私たちは「賃金が下がり続ける国」を続けるのか、それとも「賃金が上がる国」の転換を図るのか、また金垢腐敗の自民党政治を続けるのか、それとも自民党政治を終わらせ、国民の暮らし、憲法平和・民主主義を守る政治の転換を図るのかが鋭く問われる「歴史的転換点」に立っています。

特にジョブ型賃金が導入されているところでは、40歳以降の労働者の多くは賃上げがゼロや低額の賃上げに抑えられ、また、低評価の場合は賃下げもあるなど、大半の労働者は回答通りの賃上げとなっておらず、労働者間の格差と分断が一段と広がりました

秋闘・年末一時金準備

どの企業も労働者の獲得と定着が重大な経営課題となっています。多くの企業では労働者の採用もままならず離職も止まりません。

若者が安心して働き続けられる賃金・労働条件と職場環境、若者にとって魅力があり成長できる職場を作ることを秋闘の最重要課題に位置付けていきたいです。

元の木阿弥

仙洞田一彦

いつものよう、正午前の

天気予報を、テレビで見ていた。やかんがピーピー、笛を吹きはじめた。ピピピピ、だんだん激しくなる。昼飯の粉末みそ汁にそそぐ湯が沸いた。

物忘れのひどくなつた一人

暮らしの高齢者だから、ガスコンロに火をつけっぱなしにして、忘れてはいけない。何年か前、湯が沸いたのに、火を消し忘れて、やかんの蓋についている合成樹脂製のつまみを溶かしてしまつた。それで湯が沸くとピーピー音を立てやかんを買い、使うようになつた。

立ち上がり、流し台の横にあるガスコンロの火を消した。ほぼ同時に、テレビの音が消えた。画面に目をやると暗くなつていた。

ガスコンロとテレビのスイッチが連動している——いくらぼけ老人の家のテレビでも、そんなことはないだろう。そういう思いつつ、ガスコンロに火をつけてみた。

ピ、ピ、ピ。

やかんが笛を吹く。きわめて当然、テレビ画面は暗いままだ。ガスコンロの火を消した。もしかすると正午のニュースは放送中止。重大事件の発生か。事件発生なら放送するだろう。テロで放送局占拠。それなら占拠した奴らが放送するだろう。知つてゐる限りといつても知れたものだが、

考えを巡らせたが、今のところはあり得ないかもしない。でも安倍元首相の時も、最近のトランプ元大統領への銃撃も、ありえないだろうと

思われたことが起ころ。たんに私の頭で考える範囲を、世間が超えているだけのことかもしれない。

それともアパートの共同アンテナの工事か。仕事なら昼休みに入るだろう。正午から

工事ということはない。午後一時に止まつたのなら工事かもしれない。前にアンテナの工事で、見られなくなつたことがあつた。その時は部屋のポストに事前連絡のチラシが入つてゐた。今日は、工事が

て、いくらぐらいするのだろう。三、四ヶ月前、電気洗濯機が故障した。また出費か。ガタ、ガタ、ガシャーン、バタンバタン。

洗濯物を入れ、洗剤を入れて、ふたをした。するとおつそろしい音を立てた。洗濯機も大きく右に揺れ、左に揺れた。あわててスイッチをオフにした。仕方ない。新しい電気洗濯機を買つた。

今度はテレビかよ。と、思いつつ、ほぼ正午に切れたことに意味があるか、どこだわつてもいた。たまたま偶然の一致なのか、それとも何か。

割り切れない気持ちのまま、みそ汁の粉末の入つた椀に湯を注ぎ、昼飯にした。食卓の向こう側にあるテレビ画面は暗いままだ。洗濯機はほぼ三

十年使つた。テレビはそんなに経つてないはずだな。

テレビがついていないからか、いつになくいろいろな考えが頭を過る。

洗濯機の時も考えたことは考えた。洗濯は週に一回しかしない。洗濯機が壊れていても、コインランドリーが近くにあるから、往復する面倒くささはあるが洗濯そのものは困らない。どうせ時間が自由になるのだから、そんなに気に病むことはない。しかし、自分の着たものとはいそれを持つて行き、持つて帰る。習慣がないから考えるだけでおっくうになる。洗濯機といふものは、電気屋さんに行つても、すぐに買えるものなのだろうか。製品を一週間待ち、二週間待ちなんてことにはな

らないだろうか。すると、コインランドリーに通わなくてはならない。気が重くなるばかりだつた。

洗濯機が故障した日は雨が降つていた。午後四時ごろ止

んだ。歩いて十五分くらいの電気屋に行つた。その電気屋で、エアコンもテレビも買つてゐるはずだ。高齢者の記憶だから、あてにはならないが。

案するより産むが易し。五時半ころには新しい洗濯機が届いた。

今は違う。洗濯機の時は春だった。今、外は炎天下だ。高齢者は外出を控えてくださいという。言われなくとも家を出たくない。十五分も歩きたくない。

くよくよ考えるのも、テレビ故障のためか。テレビがつ

いていると考えなくなる。しかし、考えなくなるのも問題だな。テレビを見ていても飯の味は分からぬが、あれこれ考えていても飯の味は分からぬ。

洗濯機は一週間余裕があつたが、テレビは毎日のことだ。朝飯、昼飯、夕飯、テレビを見ながら飯を食う。夕飯は晩酌しながらだから時間も長い。酒が入れば、何もやる気が起

こらないから、だらだら、だらだらテレビ漬けになる。

テレビの故障は、こうしただらしない生活を立て直すきっかけになるのではないかなどと、考えてみたりする。考えてみただけだ。いや、これ

を機にテレビと絶縁し、老い

先短いし、限られた時間だから、世界の名作小説を読むこ

とにしたらどうだ。

食器を流しに置いた。

テレビと絶縁などと思つていながら、テレビの電源を入れてみた。映像が出た。一分経つたかどうか、映像が消えた。ちょっと置いて、電源を入れた。また映像が出て、すぐ消えた。原因を考えたが、

無論わからない。やっぱり新しいのを買うしかないか、と思う。

何年か前、近くにショッピングセンターができた。そこに一階にスーパーがあるので毎日のように買い物に行つてゐる。その二階に電気屋があるのを思い出した。今日も、夕方買い物に行く予定だ。その時見てこようと思った。テレビと絶縁なんてこと考えられないのだ。中毒。依存症。

いつ買ったのだろうと思いつつ、色々な取扱説明書の入つてゐる引出の中を探した。二〇一年購入だ。十万円近い値段。十三年か、もう壊れたか。毎日六時間くらいだろうか。これだけ使つたのだから、一日当たりにすれば安いものなか。

買うか、いつもの電気屋で買うかは別にして、この世界的なコンピュータ障害が収まつた後には方がいいと思つた。じつと画面を見つめていたら、店員が近寄つてきていつた。

「お探しですか？」

「いや」

私は売り場を離れて、一階

く、例によつて買い物に出た。先にエスカレーターで二階に上がり電気屋に行つた。当時よりは安くなつてゐるようだ。

並んでいる画面の一つでニ

ュースをやつていた。世界中でコンピュータがおかしくなつてゐる。アメリカでは飛行機が飛べないほどだという。

「え、もしかするとうちのテレビもその影響でおかしいの

か」と思つた。この電気屋で

無為な時間が流れていたのだ。こうして一杯やりながら人生を振り返るなんて、なんと充実した時間だらう。

目を閉じる。様々な思いが脳裏を過る。考えがまとまるわけではないが、なんとなく充実した時間にも思えてくる。

また一口、目を閉じる。過去の出来事が脳裏に浮かぶ。な

いに行つた。

静かな晩酌だつた。何にもすることがない。しかし、考

えてみれば、テレビを見て過

ごしている時だつて、何にもしてないのだ。何にもしてない

いのでなく、テレビを見てる

じやないかと言わればそう

かも知れないが、へ理屈のよ

うにも思える。テレビを見て

いるときは思わなかつたが、

のアルコールが回つたからか。立ち上がりつてテレビを少し斜めにし、後を見た。線がつながつてゐるのは、電源コードとアンテナの端子のみ。そ

こでアンテナの端子を押し込んだ。正確に言うと、ちよつと押してみただけに過ぎない。

テレビの位置を戻し、電源を入れた。画面が出た。音も出た。二分、三分経つても絵も音も消えなかつた。二十分、三十分でも消えない。ということはアンテナの端子が浮いていただけのことか。

夜の十一時ごろ目が覚めた。食卓の椅子に座つたままウトウトしてゐたらしい。その間、テレビは絵も音も出し続けていたに違ひない。テレビを消して、寝る前のシャワーを浴びに浴室に入つた。

のスープに夕飯の弁当を買ひに行つた。

人生最後の課題だ。テレビ漬けの生活から抜け出そう。

持ち上げた五百ミリリットルの合成酒の缶をコップに傾けたが、ちよろつと入つただけ。それを飲み干すと、衝動

というしかない。後から考えても何を思つて、そんな行動をしたのかも分からぬ。し

いて理由をつけるなら、晩酌